第 59 回土木計画学研究発表会・講演集

長崎県五島列島における地域づくりの科学的知見の活用ー(1)住民参画型ジオパーク活動

永冶克行[1]・清野聡子[2]

[1]五島自然塾 (〒853-0004 長崎県五島市幸町 8-12)
gotoshinpo@lagoon.ocn.ne.jp
[2]正会員　博(工) 九州大学大学院准教授 工学研究院環境社会部門（〒819−0395　福岡市西区元岡 744
E-mail:seino@civil.kyushu-u.ac.jp)

このファイルは土木学会論文集の原稿（和文）を作成するために必要な，レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています．それと同時に，原稿そのものの体裁（A4）をとっているため，このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば，所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます.

この要旨を含め，タイトル部分の幅は本文よりも左右1 cmずつ狭くします．要旨のフォントは明朝体9 ptを用いてください．要旨の長さは350字以内です．要旨の後に 1 行空けて，キーワードを5つ程度，Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい.

Key Words : *times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line*

①地域住民の活動に関する方針

住民の地域知を生かした住民によるジオサイトの発掘

西海国立公園指定地域になって以降、地元住民によるジオ的な各種活動（資料）があったが、十分な広がりにはなり切れていない。平成 16 年に合併されて行政は一体化したが、旧町時代の行事や人的つながりも残り、さらに二次離島と呼ばれるように海でも島々に分断されているのが現状である。

その中で、ジオパーク認定を目指してきた五島自然塾では、申請地域全域の住民有志により講座や現地探訪会等を実施し、その成果として全域のジオサイト候補地「第１案」を作成した。また、旧町単位で、各地域自慢放談会を 15 回ほど実施し、ジオサイトの掘り起こしを一般の地域住民自らで行ってきた。地域内の横のつながりや住民の地域知を生かしながら全市的な活動に広げていくことを活動の基本にしている。

②地域住民の活動状況

国立公園制定以降の各種住民活動が五島自然塾のジオパーク推進活動に集約

現在のジオサイト候補地約 60 か所●は、住民が自ら探し、提案されたものがほとんどで、今回の認定申請をきっかけに、範囲を見直し、内容を深めるために専門家による科学的解説を加えている。

昭和 30 年の国立公園制定の時も観光五島のメンバーが発議し、申請は佐世保の政治家を中心にした活動により指定されたのが実情である。

その後、旧各町に発足した観光協会による観光パンフレットでジオ景観を観光地として宣伝、学校の教職員を中心とした理科教育部会による『五島の自然』誌発行や、新教育課程におけるふるさと学習に備えたいわばジオツアー的な理科教育関係者による地域研修会の開催継続、民間団体である五島文化協会の「浜木綿」誌による歴史・民俗・文化などの掘り起こしや現地探索会活動、福江市観光協会や五島観光連盟を中心にして各地の団体等と共同で観光と自然景観を生かしたイベント開催や集客活動の推進、社会的な要請によりジオ的自然景観地を中心にした官民一体化による海ごみ等の清掃活動、地域住民による生態系の調査研究成果のインターネット配信継続、そして平成 25 年から始まる住民自身のジオパーク認定推進のための五島自然塾による各種活動（候補地マップの作成、各地探訪会、専門家による講座開設、新『五島の自然』誌発行、地域自慢放談会による地域知発掘、ジオサイト形成解説パネル板制作など）へと続いている。

③地域住民の活動に関する課題と展望

全市横断するジオパーク推進をきっかけにした地域知発

掘を生かした観光振興と人口減対策へ

五島地域のジオパーク推進においては、行政や各種団体等による推進協議会が発足した現在、重要課題である観光振興と人口減対策とを意識した活動が必要となる。

五島自然塾が各地域でジオパークへの理解を深め、ジオ人材の養成を図ってきた活動が民間住民の活動としてその機運づくりを果たしてきており、今後、ここで育った人材をいかに活用できるかが課題となる。同時に、各種研究者による調査研究論文発表がまだ少ないことから、研究者の巡検誘致や調査研究への支援なども行って住民への還元を意図する必要もある。

地域住民の中にジオ的感覚が根付き、ジオガイドも育っていくことにより、物見遊山の旧来観光からジオツーリズムとして知識欲を刺激するツアーを設定し、新たな観光客層の掘り起こしが可能になり、島の経済発展に寄与を強めていくことができる。このためにも、経済界や文化団体などとも具体的事案ごとに結び付いていけるような分野別のジオパーク推進部会の強化が必要となる。

また、小中高校などでのジオ学習の本格化により、子供の時代から郷土のすばらしさを学び、自らの郷土を誇りに思う心が育っていくことになる。それこそが人口減対策の基盤となりうる。

●1955（昭和 30）年 3 月、五島列島の多くの地域と、佐世保九十九島、平戸などを「海の国立公園」として西海国立公園が指定される。

●1969（昭和 44）年 9 月、五島理科教育協会が、「五島の自然」（１６６ページ）を発刊。五島の風物詩、植物、動物、地形・地質、気象を網羅してやさしく解説紹介。小中学校校長を中心に高校教諭、測候所などの機関の方などが執筆している。

●1995，8 鐙瀬ビジターセンター開設。ここを中心にパークボランティア、鬼岳振興会などが鐙瀬周辺の清掃や海岸利用の観察会、島内の野鳥探索会、島内の山登り企画などを実施して市民参加を募って実施、現在に続く。

●1996 年～2001 年にかけて五島教育研究会理科教育研究部が植物、地質、地形などのジオツアー（現地研修会）を行う。新教育課程の総合学習でふるさとを教材化することを目指し教師自らが野外に飛び出し、地域に触れ、地域を知り、その楽しさを味わうことが大切であるという基本理念をもって実施された。

●1983（昭和５８）年秋に鬼岳で自然に親しむ運動の一環として第 1 回鬼岳自然公園大会が開催され、翌年は、青年団が主催していたタコ合戦が消滅したため、時期を 5 月連休に変更して第 2 回以降バラモン凧あげ大会を同時に開催して現在に続く。

●1984 年秋に第 1 回歩け歩け西日本大会（現在長崎五島ツーデーマーチと改称）を開催。福江青年会議所などが健康活動として実施し始めていたウオーキングを、イベント大会として全国からの愛好者と地域住民を募集。五島の自然景勝地を 2 日間で約 50 ㌔歩くことで、地元住民の郷土再発見に繋がり、現在の五島歩こう会という市民団体も発足した。

●富江溶岩海岸にウオーキング・サイクリング専用コースができたことから、5 月 4 日にグリーンウオークを行い、途中で、自然に関する Q&A を行う抽選会など実施。溶岩を利用して作られた倭寇の時代に作られたとされる勘次が城、海岸を活用したスケ漁石積み、玄武岩の流出による溶岩トンネル井坑などが周辺にある。

●1999 年、20 世紀最後の、日本最後の夕陽を見よう、として大瀬崎断崖展望所でイベント開始、現在も拡大しながら継続されている。

●平成時代になってから、体験学習を中心とする修学旅行の受け入れ強化を行い、現在ジオパーク構想の一環にも繰り入れている。

●大瀬崎で大陸へのハチクマの渡りのコースが発見され、インターネットブログ「大瀬崎観察日記」による野鳥の生態報告が地元研究観察者により詳しく行われている。平成 30 年は発見３０周年として「ハチクマ講演会・観察会 in 五島」が、五島市教育委員会と日本野鳥の会長崎県支部の共催で行われた。また、地元在住者が 2007 年 7 月に開設した五島各地の動植物の調査・研究の成果が「長崎・五島列島福江島の博物誌」としてインターネットにより発信されている。最新の貴重な写真と入念な調査記録が充実し、この情報の提供により、マスコミでも貴重な生物の動向が取り上げられることが多くなっている。

●旧福江市が中心となり市民清掃として毎年「クリーン五島」を提唱。市内婦人会や商工団体、観光関係者、歩こう会なども参加して、代表的ジオサイト候補地である鬼岳・鐙瀬を中心に清掃活動を実施している。

●三井楽白良ヶ浜の砂丘で、グリーングリーンデーとしてイベント開始。その後白良ヶ浜、万葉公園地域の地域清掃として継続

●アクロス五島、福江青年会議所などの団体が、海ゴミ清掃、福江商工会議所青年部が福江川の清掃をよびかけて毎年ごみ掃除。各地町内会なども清掃活動に取り組む

●2013（平成 25）年 5 月，地元新聞社に事務局を置いて第 1 回「五島の海岸と歴史散策」が始まった。コースは、河務湿地（唐船ノ浦）…浦ノ川干潟…岐宿鰐川…茶園遺跡跡…岐宿港…岐宿町中歴史散策…金福寺…団助山碑（金刀比羅神社）…寄神貝塚…八朔鼻海岸

の距離約 7 キロ程度が開催され約４０名参加。2 回開催後、2014,1 月この活動を地元新聞社がジオパーク推進のための五島自然塾活動へ繋げることを提案、現在にいた

る。

●2014，9 月、五島文化協会ではジオパークジオサイト候補にもなっている五島の城「石田城」シンポジウムを開催してジオパーク推進運動を後押し。石田城（福江城）は、溶岩海岸に建設され、周辺の玄武岩や五島層群の堆積岩を活用して黒船対策として江戸時代の最後に城壁を張り巡らせており、海に三方を囲まれたジオの城でもあった。

●日本離島センターの支援を受けて、２０１４，９，２６ 第 1 回のジオパーク認定を目指した市民向けの連続 12 回講座や、専門家やジオパーク専門員などを招いて西海国立公園 60 周年記念シンポジウムを開催するなど、市民が自ら学習し、その参加者の中から中心指導者が育っている。

●五島自然塾が開催する講座や散策会への参加者が集まって、2014 年に五島市域のジオサイト候補地（案）マップを作製印刷、152 項目に説明をつけた。

●2015 年、清野聡子九大大学院生態工学研究室准教授が地元新聞に連載した「まだ残っていたのですね絶賛！五島の海岸」をピックアップし、教育用資料として「奇跡の島五島の海岸ガイド」誌（23 ページ）を発刊。

●五島自然塾は 2016 年 5 月、九州ろうきんの支援を受けて「知らなかった！五島の自然」（45 ページ）誌を発刊。

●2017 年 11 月五島自然塾は、ジオサイト岐宿モデル作成のための第 1 回岐宿自慢放談会を開催。岐宿地域で 4 回など旧各町地域で 20～30 名程度の地元有志を集めて各地区自慢放談会を開催（現在 15 回程実施）。住民からのジオサイトの掘り起こしとジオパーク活動の浸透を目指して、専門家によるその科学的解説の研修や、そのでき方などのパネル作りも同時に行って学習している。作成または作成中のジオパネルは 35 枚に達し、空港や港、市役所支所、講演会会場などでの宣伝活動に生かしている。また、現在並行して、一般市民対象に、専門的なジオをやさしく学ぶとして、推進事務局の協力を得て専門家によるジオ学習会を 2 回実施、継続中。

■2017，6 月五島列島ジオパーク推進協議会発足後、盈進小→海陽高校などの学校教育、公民館などの市民講座、市民向け協議会のツアー、ジオガイド講習会、専門家招集の調査、五島バス・九州商船・五島市観光協会等のジオツアーなどが次々に行われている。

参考文献

1) 本間仁，安芸皓一：物部水理学，pp.430-463，岩波書店，1962.
2) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編，pp.110-119，1996.
3) Shepard, F. P. and Inman, D. L. : Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans. AGU*., Vol.31, No.2, 1950.
4) C. R. ワイリー（富久泰明訳）：工学数学（上），pp.123-140，ブレイン図書，1973.
5) Smith, W. : Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.

(2009. 7. 1 受付)

FORMATTING JAPANESE MANUSCRIPT FOR JOURNALS OF JSCE

Katsuyuki NAGAYA and Satoquo SEINO

This template is prepared for your preparation of manuscript for JSCE journals. It provides instructions: page layout, font style and size and others. If you replace the relevant text with your own by using “cut & paste,” you can make your manuscript easily.

The English ABSTRACT should be justified, leaving a 30 mm margine on the left and right sides. Font should be a 10-point Times-New-Roman. The length should be 300 words or less. It should be placed below the title and authors’ names set in 12 pt, spacing a single line.